

ナザレを出て、メギドに向かいました。ここは予定になかった場所ですが、見学がスムーズに進んだため、時間調整による幸運でした。ここへ向かう途中、後方の山上にナザレの町を見ながら畑の続く平原を走ります。遙か向こうに見覚えがある丸い山が見えました。見覚えがあるというものの、写真で知っているだけで、伝説では、イエス様の「変容の山」と呼ばれるタボル山でした。

メギドは **汚れた霊どもは、ヘブライ語で「ハルマゲドン」と呼ばれる所に、王たちを集めた。(黙 16:16)** という聖書の言葉で有名です。神の大いなる日の戦いに備えて集結する場所が、メギドの丘(ハルマゲドン)です。紀元前 10 世紀からメギドはイスラエルのエズレル平原の西の行政拠点となり、交通



遺跡復元図(看板)



世界遺産 メギド

の要所でもあり、多くの戦いがあった場所で、都市として、要塞として、様々な地層が発掘されています。ソロモン時代の階段が残されています。小高いところからエズレルの平原が見渡せて、タボル山もよく見えます。色とりどりの野の花が咲き、アーモンドの花も

そろそろ盛りを過ぎていましたが、美しく咲いていました。ここで、デボラが勝利し(士 5:19)ましたが、ソロモンが城壁を築き(列上 9:15)外敵から守りを固めました。けれども、アハズヤが北イスラエルと戦って死に(列下 9:27)、ヨシヤがエジプトと戦って死に(列下23:29)ました。長い間、絶え間なく、此処が大勢を決する戦場となってきたのでしょうか。

昼食はアラブ人の経営するレストランで豪快にケバブを食べました。この町でドゥルーズ人と言われる神秘的なイスラムの一派の姿を見かけました。多宗教の人々が折り合って暮らしているのです。

少し北上して港湾都市ハイファの郊外、ムフラカにあるカルメル山まで登りました。ここに預言者エリヤの像があります。アハブの妃イゼベルが連れてきたバル神の預言者たちとイスラエルのヤハウエの預言者エリヤが祈りによる「雨乞い合戦」をして勝利した高台なのではないでしょうか。(列上 18:20) エリヤはバルの預言者を皆殺しにしましたので、逃亡せざるを得ませんでした。その時の高台の祭壇を記念して、現在のカルメル会の修道院礼拝堂の祭壇もこの石を用いています。この丘で放蕩息子が食べたかったというイナゴ豆の木を始めて見る事ができました。



円形劇場



水道橋

やがて私たち一行は地中海に面したカイザリアに向かいました。紀元前 22 年に、ヘロデ大王がローマの総督府を置く都市として 12 年という短期間で造った町です。砂が入らないように設計した水深深い港、貯蔵倉庫、広い道路、ローマの神々の神殿、剣闘士の競技場がありました。雨量が少ない土地のためヘルモン山の水源から水道橋を通して水を引いたため、その遺跡が残っています。地中海を眺めるローマ式の円形劇場は現在も利用している立派な形です。これだけの建築をするためには労役もかなりのものだったでしょう。

使徒パウロがカイザリアにいるローマ総督フェリクスのもとへ護送されて、此処で 2 年以上拘留されています。(使徒 23:23) 次の総督フェストゥスの時、ローマへ送り出されたのです。パウロは自分の裁判は神の計画の中にあり、万事が益となると確信して、喜んでいたのでした。